

1 教育目標（目指す児童像含む）

社会に貢献できるよう、心身ともに健康で、豊かな人間性をもった実践力のある児童を育成する。

- ・ 健康で たくましい子（体）
- ・ よく考え やりぬく子（知）
- ・ 正しく 思いやりのある子（徳）
- ・ ふるさとを愛する子（徳）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「人間尊重の教育」を基盤として、全職員が自らの使命を自覚し教育活動の充実に努めるとともに、家庭・地域と協働した地域とともにある学校づくりを推進し、学校教育目標の具現化を目指す。

目指す学校像 ・安全・安心な学校 ・学力向上に取り組む学校 ・地域とともにある学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

「学習指導要領」「栃木県教育振興基本計画」「第二次宇都宮市学校教育推進計画」等の趣旨に基づき、児童の実態を踏まえるとともに、地域の特色を有効に活用し、学校教育目標の具現化を目指す。

- (1) ○「健康でたくましい子」の育成に向け、基本的な生活習慣を身に付ける指導と主体的に健康な体づくりができる教育活動に取り組む。
- (2) ○「正しく思いやりのある子」の育成に向け、道徳科の充実に図り、個々のよさを伸ばし、相互にかかわることを通して認め合いながら、豊かな人間関係を築く教育活動に取り組む。
- (3) ○「よく考えやりぬく子」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るとともに、高学年における教科担任制の実施により、学習意欲の向上及び基礎学力の定着を目指した学習活動に取り組む。
- (4) 「ふるさとを愛する子」の育成に向け、地域ボランティアの協力を得た体験活動や、宇都宮学を中心にした学習活動に取り組むとともに、地域ならではの災害等を正しく理解し、自ら危険を予測して回避できる力を身に付ける活動の充実に図る。
- (5) 「地域とともにある学校づくり」に向けて、社会に開かれた教育課程の視点に立ち、地域の教育力を最大限に生かし、家庭及び地域社会との連携を一層深める。また、積極的な情報発信に加え、地域協議会を効果的に活用する。
- (6) 教職員一人一人が健康かつ教育的愛情をもって質の高い教育が行えるよう、「働き方改革」の視点に立ち、職場環境並びに業務改善の取組を推進する。特に教職員自身が自らのキャリアプラン構想を大切に、「セルフリフレッシュデー」などを活用し、常日頃からメリハリのある勤務を心がける。
- (7) 教職員は、自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にした教育活動を展開し、誰からも信頼される教職員として職務を遂行する。

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性、社会性）を育てる小中一貫教育～小中連携による小学校高学年における教科担任制の推進～

4 教育課程編成の方針

編成にあたっては、関係法令、小学校学習指導要領、県教育委員会の指導指針、宇都宮市学校教育スタンダード、学校経営の方針等に基づき、学校及び児童の実態を十分に踏まえ、家庭・地域との連携・協働により、「社会に開かれた教育課程」を実現する。

- (1) 学習指導要領の内容を十分に理解し、人格の完成を目指し、個性の伸長と豊かな人間関係づくり、基礎的・基本的な学習内容の定着と活用力の育成を図るとともに、高学年における教科担任制の実施、教科横断的な視点に立った内容の充実に努め、知・徳・体のバランスを大切にしながら「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- (2) 児童一人一人の生きる力を育むために、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開し、教師と児童が一体となった創造的な活動に取り組む。また、道徳科の授業を要として、学校教育活動全体、並びに家庭・地域における豊かな体験をとらえて、児童の道徳性の育成を図り、道徳的実践力が養われるよう教育課程を編成する。
- (3) 小中一貫教育カリキュラムを展開していく中で、地域学校園の各学校と連携を図り、小中一貫教育の趣旨を十分に踏まえた教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 地域や家庭と連携し、児童も教職員も生き生きと主体的に活動できる、安全・安心な学校づくりの推進 ○児童が安全に、安心して通える学校づくり ○基礎学力を確実に身に付けることができる学校づくり ○教職員一人一人が自身のキャリアプランや働き方について高い意識を持って勤務し、ゆとりのある学校づくり 【学 習 指 導】 ○「基礎・基本を大切にしながら、児童がいきいきと学ぶ授業の構築」 【児 童 生 徒 指 導】 ○「自他のよさを認め、互いに励まし合いながら行動する児童の育成」 【健康（体力・保健・食・安全）】 ○「自己の健康・体力に関心を持ち、主体的に行動する児童の育成」
--

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

※令和4年度も、学校生活全般にわたって**新型コロナウイルス感染症拡大防止に十分配慮しながら教育活動を推進する。**

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評 価
目指す学校の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 90%以上	・授業や「トークタイム」の実践を通して、「話を聞く」「分かりやすく伝える」態度や技能が高まるように指導する。また、「伝え合い」「学び合い」の充実により、各児童の思考を深め、確実な学力を育む。 ○国語・算数を中心に基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、その効果的な指導方法、児童の学力向上に向けての支援の手立てを工夫する。 ・ICT機器を活用して自分の考えをまとめたり他者と交流して深めたりする時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの充実を目指す。	B	【達成状況】 児童 94.2% 保護者 94% 教職員 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・「トークタイム」については実施せず授業内における「伝え合い」「学び合い」の充実を図る。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・朝の会、帰りの会をはじめ様々な機会を捉えて、他者への優しい行いを称賛する。 ・思いやりに欠けた言動が見られた場合には、その都度相手の立場から考えてみるよう促すなど、丁寧に指導する。 ・人権教育年間指導計画に基づき、学校全体の教育活動において人権教育を推進する。 ○遊びの場や清掃の時間をなかよし班活動（異学年交流の場）として活用し、相手の立場を理解して思いやる心を育てる。	B	【達成状況】 児童 95.6% 保護者 98.8% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の優しい行いを称賛することを継続して行い、異学年交流等を充実させる。

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・生活目標の提示の仕方を工夫すると共に、職員の生活当番活動を充実させ、適切な場所で適切な機会に指導を行い、児童がきまりやマナーを守って生活しようとする意識を醸成する。 ・ふりかえりタイムの設定により、自分自身を振り返り、落ち着いた生活を送ろうとする態度を育てる。 ・自分たちの生活面での課題や解決の方策を児童自身が考えられるよう、プロジェクト活動の一環として、児童が生活目標を考えて発信する機会を設ける。 ○チャイムの有無にかかわらず、授業開始時刻や一斉下校の時刻など、時間を守ることの指導を徹底する。 ・“マナー３か条”「①先にあいさつをしましょう ②廊下や階段は静かに右側を歩きましょう ③友達は『さん』付けで呼びましょう」を徹底し、児童自身が「マナーを守っている」ことを実感できるようにする。また、「脱いだ靴を下駄箱にきちんと整頓する習慣」の会得を徹底し、自分自身の言動を振り返ったり他者のことを考えて行動したりできる児童の育成を目指す。	B	【達成状況】 児童 91.2% 保護者 94.2% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・プロジェクト活動で生活目標を発信することに加え、「あんぜん・あいさつ・ありがとう」や下駄箱の靴揃えについて周知を徹底していく。
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上	○児童会プロジェクト活動による毎朝のあいさつ運動、下校時のあいさつ、児童集会での呼びかけ等により、自ら進んであいさつしようとする態度を育てる。 ・学級での指導、集会時や日常の指導などをおして、全校体制であいさつを重視する環境づくりを進める。 ・教職員から進んで丁寧なあいさつをすることで範を示し、教職員、保護者、来客に対して自分からあいさつできる児童を育成する。また、児童同士でも互いに気持ちのよいあいさつができるよう、あいさつ強化週間を定期的に設定し、児童の意識を向上させる。	B	【達成状況】 児童 97.1% 保護者 92.8% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・プロジェクト活動として、あいさつ運動を実施するなど、自分からあいさつができるような雰囲気づくりをしていく。

A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答90%以上	・家庭学習の習慣化の取組と連携を図ったり、各種検定等を継続的・計画的に位置付けたりすることを通して、児童が「自ら目標を設定し、それに向かって努力することの大切さ」に気付けるよう支援していく。 ・道徳の授業で、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。 ・児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。また、自己の成長を振り返り実感できる場や児童が相互に認め合う場を率先して設定し、自尊感情を育む。 ・懇談会や行事等において、保護者に、様々な場面で物事に粘り強く取り組んでいる児童の姿を見てもらう機会を設けたり、学校での様子が具体的に伝わるよう発信方法を工夫したりする。	【達成状況】 児童 90.5% 保護者 85.4% 教職員 100% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者・教職員の肯定的回答が昨年度より上回っているため、今年度の取り組みを継続・実施していく。学習するときなど、いつも自分なりの目標をもって取り組めるように支援する。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上	・「新しい生活様式」の確実な実践指導及び最新の感染症対策の方策を徹底し、感染症拡大防止に努める。 ・安全教育を徹底することにより、けがによる保健室利用を減少させる。 ・日常生活や教科指導の中で、自然災害（雷、竜巻、洪水等）について、学年の発達段階に応じて指導し、安全に行動できるようにする。 ・避難訓練、交通安全教室などの定期的な実施、事前指導・事後指導の充実をととして、児童が安全な学校生活を送ろうとする意識を高め、日常生活における自らの安全確保に必要な各自の判断力を確実に身に付けさせていく。 ・情報交換会や定期的な交流、毎朝のあいさつ運動や立哨活動などの機会を活用し、スクールガードチーフ及び見守り隊との連携を深め、児童の登下校の状況の把握に努めるとともに、児童が主体的に通学時の安全について考え行動する機会を設け、安全意識の高揚を図る。 ・体育関係各種検定カードの活用や業間のスポーツタイムの充実により、自ら体力向上に取り組む児童の育成を図る。	【達成状況】 児童 97.8% 保護者 94.1% 教職員 93.8% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・感染症対策や避難訓練、登下校指導等の安全教育を充実させ、児童が自らの健康や安全に対する意識を高められるようにする。 ・感染症の流行状況を注視しながら、体力向上に取り組む場を積極的に設けていく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・道徳の授業で年間を通して「個性の伸長」等について指導し、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高める。また、宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、キャリア・パスポートの有効活用を図って、望ましい勤労観・職業観を意図的・計画的に育む。 ・外部機関や企業との連携を図った体験的な学習を通して視野を広げ、社会への関心を高めたり社会との関係を学んだりする機会を確保し、将来の社会人としての基盤づくりに努める。	【達成状況】 児童 90.5% 保護者 85.4% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者・教職員の肯定的回答が昨年度より上回っているため、今年度の取り組みを継続・実施していく。学習するときなど、いつも自分なりの目標をもって取り組めるように支援する。

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	・校内研修等により教師自身の指導力を向上させ、英語によるコミュニケーションの楽しさを児童が実感できる授業の構築に努める。 ・外国語活動・外国語科の授業はもちろん、授業以外の時間にも児童がALTと交流できる場を設定する。言語や文化について体験的に児童の理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	A	【達成状況】 児童 92.7% 教職員 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・学級内の掲示に外国語を用いたり、会話の一部に外国語を取り入れたりする。 ・外国語の図書資料を充実させる。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答90%以上・保護者の肯定的回答80%以上	・生活科、3、4年生での社会科、5、6年生での総合的な学習の時間の授業（「宇都宮学」）や掲示物等を通じて、宇都宮市の伝統・文化・産業等に対する児童の理解を深め、郷土愛を育む。 ・宇都宮について親子で話し合う場を確保するため、10月に「うつのみやウィーク（仮称）」を設定し、家庭で互いの知識を共有したり教え合ったりできる機会を保障する。	B	【達成状況】 児童 92% 保護者 67.5% ・児童と比較して、保護者が目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・『うつのみやウィーク』や総合的な学習の時間等の内容について、家庭に学年だよりやさくら連絡網を通して、積極的に周知する。
A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	・学校や家庭における学習で、児童がChromebookを文具として活用できるよう、発達段階に応じた適切な指導を行う。また、適切・安全に使いこなすことができるよう、児童にネットリテラシーなどの情報活用能力を育成する。 ・児童がパソコンや図書等を学習に活用する様子を学校だよりやHPで公表し、取組状況について周知を図る。また、AIDリルを活用し、基礎的な学力の確実な定着を目指す。 ・市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。市立図書館の本を利用した調べ学習への取組などを、図書館だより等で保護者に知らせる。	B	【達成状況】 児童 94.9% 教職員 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、パソコンや図書資料等を学習に計画的に活用するとともに、家庭への周知を図る。その際、情報活用能力の育成を図る。 ・目標値を90%に引き上げる。
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答90%以上	・体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ・人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ・総合的な学習の時間や各教科の授業等において、ICT機器の活用等、方法を工夫しながら地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B	【達成状況】 児童 95.6% 保護者 98.8% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の優しい行いを称賛することを継続して行い、異学年交流等を充実させる。

	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上	・社会科・理科・生活科・総合的な学習の時間等の授業を通して、地域や国土の環境や防災への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ・「持続可能な開発目標（SDGs）」を意識したぼくら活動、プロジェクト活動の充実を図り、牛乳パックのリサイクル（状況が改善時）やプラスチックごみの分別、環境美化への呼びかけなど家庭とも連携しながら、継続して行う。 ・教室移動の際の消灯、不要な水道の使用防止等、節電・節水などについて周知徹底を図る。 ・東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育の充実を図る。	B	【達成状況】 児童 91.2% 教職員 93.8% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・SDGsを意識したぼくら活動やごみ分別等を継続していく。 ・節電や節水、リサイクルなど児童が自分にもできることを進んで考え、行動する意識を高める。
目指す	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	・特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ・通常の学級においても、必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。 ・校内研修や職員会議等の際に、児童指導上の課題等を共有する場を確実に設け、適切な指導及び必要な支援の在り方について、教職員の理解を深める。	B	【達成状況】 教職員 100% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も特別な支援を要する児童の共通理解を図り、必要に応じて組織的対応を行う。
学校の姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・「市及び本校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは絶対許されないことという児童自身の規範意識の向上や思いやりの心の育成に努める。また、基本方針を学校ホームページで公開するとともに、学校だより等を活用するなどして周知を図る。 ・いじめゼロ強調月間の取組やプロジェクト活動によるいじめ根絶に向けた児童の活動等を通して、いじめの未然防止・早期発見・適切な対応に努める。 ・いじめの原因の一つともなり得るSNSの利用や情報モラル等を指導するとともに、適切な使い方について保護者と共通理解を図る場を設定する。	B	【達成状況】 児童 99.3% 保護者 82.6% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・学校への取り組みが保護者へ周知されていないと考えられるので、学年だよりやさくら連絡網等を活用して、学校での取り組みを定期的に伝えることを意識していく。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童とともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	・互いに存在を認め合う人間関係づくりを目指し、各自が自己肯定感を高められるよう、教師による日常的な声掛けや、朝の会・帰りの会等での児童が互いに称賛し合う場の設定を行う。それぞれの学級での取組を、学級懇談会や学年だよりで周知する。 ・教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し、不適応傾向・問題行動の早期発見と不登校の兆候や傾向のある児童に係る校内での情報共有を図る。 ・「共遊の時間」を継続実施し、児童同士及び教職員と児童のより良い関係づくりに努める。	B	【達成状況】 児童 99.3% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、日常的な声掛けや人間関係づくりを教職員全員が心がけ、取り組みを継続していく。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	・特別な支援を必要とする児童の特性による学習上・生活上の困難の理解に努め、必要に応じて特別支援教育コーディネーター・養護教諭と連携し、支援に係る適切な判断や支援を行える体制を整えておく。また、スクールカウンセラーとの更なる連携強化に努め、専門的見地に立った適切な指導への助言を得られるようにする。 ・児童が国籍や文化の違い等を認め合い尊重し合いながら生活できるよう、他国の多様な文化に触れる機会を設定し、自国と他国の隔てなくそれぞれを尊重しようとする態度を育成する。	B	【達成状況】 教職員 100% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・教育活動における他国の多様な文化に触れる機会などで、国籍や文化の違い等を認め合い尊重し合えるようにする。
A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 ⇒児童・保護者・教職員・地域住民の肯定的回答 90%以上	・キャリア・パスポートを活用して自他のよさや成長を認め合う場を設け、児童相互のより良い関係を構築する。 ・「なかよしタイム」及び「共遊の時間」を継続実施し、児童同士・教師と児童間の豊かな人間関係の構築に努める。また、日常生活や瑞南ふれあい祭りなど、あらゆる教育活動の場面で、教師と保護者や地域の人とがふれあう機会を設定する。 ・児童会活動の活発化を図り、児童が主体的に取り組む場を設け、活動の在り方の工夫改善を図る。	B	【達成状況】 児童 92.7% 保護者 94.2% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・小規模校の特色を生かし、児童を中心として教職員・保護者・地域が交流を深め豊かな人間関係の構築に努める。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答90%以上	・授業のねらいの明確化とまとめ・振り返りの実施により、児童が見通しをもって取り組み、学んだことや自分の成長を実感できる授業を行う。 ・児童の実態を踏まえて、教材を工夫するなど、分かる授業の実践に努める。 ・学校課題を軸とした職員研修を実施し、教職員同士で学び合い、各自の授業力向上を図る。 ・学級担任とかがやきルーム指導員や学力向上担当教員の連携を密にし、より一層効果的な実施方法を工夫して少人数指導の充実を図る。 ・教科担任制や習熟度別学習、T・Tなどの少人数指導を充実させ、児童の実態に合わせて、各自の学力をさらに伸ばす指導や取組について工夫していく。	B	【達成状況】 児童 99.3% 保護者 88.6% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・児童の学力向上を目指し、分かる授業を展開するために職員研修等を通して、教職員の資質向上を図る。また、がっちり学習を二人体制で行い、「できた」という実感を味わわせる指導を積み重ねる。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	・教職員は、話を聴く、声を掛ける、称賛する、指導する、家庭と連携するなど、児童・保護者等と積極に関わる。 ・全教職員が学校経営への参画意識をもってチームとして取り組めるよう、情報交換の時間を確保し、共通課題を設定し解決に取り組む。 ・教職員同士の打合せの時間を確保したり報・連・相を徹底したりしてコミュニケーションを十分図れるようにし、教職員同士が協力し合い、協働して教育活動の推進に努める。	B	【達成状況】 教職員 100% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後もこれまで通り、声を掛け合い、話を聞くなど教職員間のコミュニケーションを十分に図りながら、協働して教育活動の推進に努める。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上	・全教職員が児童と向き合う時間の確保に努めるために、働き方改革の視点に立って、業務の効率的な実施・計画的な処理を意識する。 ・学校行事の精選、校務分掌の見直し等により、業務量の縮減を目指す。 ・業務内容の可視化を図り、小チームで計画的に対応できる仕組みを構築するなど、職員間の連携を強化する。 ・ミライムによる出退勤の記録を蓄積することにより、適正な勤務時間の管理についての教職員自身の意識を高める。	B	【達成状況】 教職員 100% ・目標を上回った。 【次年度の方針】 ・昨年度までの取り組みを継続するとともに、次年度はさらに働き方改革の視点に立って、業務の効率的な実施・計画的な処理に努める。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答85%以上	○地域学校園分科会ごとに今年度の基本方針を受けた取組の充実を図る。計画的な分科会の実施により、地域学校園内の情報交換を密にして共通理解を図り、地域の課題に即した各分科会の取組の充実を図ることで、小中の相互理解を深める。 ○児童や保護者にも広く「小中一貫教育」の取組と意義を周知するため、学校だより・HP等の広報活動を積極的に行う。	B	【達成状況】 児童 93.6% 保護者 78.5% 教職員 100% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・さくら連絡網を活用し、児童生徒の実践が各家庭にも伝わるようにする。 ・学校園で作成している図書だよりや食育だよりも各家庭に配付する。

A 22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答90%以上	・地域協議会との連携を更に強化し、一層の教育的効果が期待できる学校行事や授業への協力を地域へ依頼する。 ・街の先生や地域ボランティアの方々を学校行事や授業に積極的に活用することをとおして地域の教育力の活用を図るとともに、学校と地域が協働して児童の健全育成に取り組める環境づくりに努める。 ・地域協議会との連携を工夫し、学校行事や授業に地域の教育力を積極的に活用できるよう、更なる情報収集に努める。	B	【達成状況】 保護者 96.1% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・次年度も学校行事や総合的な学習の時間、生活科等の授業において、地域の教育力を積極的に活用していくことを重点化していく。
A 23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒保護者・地域の肯定的回答85%以上	・ICT機器を活用し、オンラインによる出前講座等、新しい交流の在り方の開発に努め、各種機関の専門知識や技術等を活用した多様な学習を実践する。 ・家庭や地域とは、学校だよりやHP、連絡帳、電話、懇談等によって可能な限り情報交換を密にし、その結果を基に学校教育活動の充実を努める。 ・地域協議会と連携し、学校経営方針への保護者・地域住民の理解を深め、意見や学校関係者評価の結果を反映させて学校経営の改善に努める。	B	【達成状況】 保護者 96.1% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も家庭や地域とは、可能な限り情報交換を密にし、その結果を基に学校教育活動の充実を図り、より良い児童の育成に努める。
A 24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答90%以上	・新型コロナウイルス感染症対策の徹底、熱中症予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じて適切な保健指導管理に努める。 ・定期的に学校施設の安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ・危機管理マニュアルの見直しや改善を日常的に行い、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、洪水、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にし、児童自身が災害に立ち向かう態度や防災に関する基礎知識を確実に身に付けさせ、児童自身の危機回避能力を育成する。また、それらの取組を学校だよりや保健だより等で保護者及び地域住民にも情報発信し、日常生活における安全な行動の仕方を共有していく。	B	【達成状況】 保護者 92.9% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今後も適切な健康管理や定期的な施設の安全点検、避難訓練や引き渡し訓練等を確実に実施する。また、それらの取り組みを学校だよりやホームページ等で保護者及び地域住民にも情報発信していく。
A 25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	・Chromebookを児童が効果的に授業で活用できるよう、校内研修等を通じて教師自身のICT活用力の向上に努める。 ・授業において、学習のねらいを達成させるために教師が効果的に機器を用いることで、課題解決にICT機器等を活用しようとする児童の意欲を高める。 ・市立図書館とも連携し、授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。	B	【達成状況】 児童 94.9% 教職員 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・教師が効果的なICT機器の活用を行うとともに学校図書館の資料の充実を図る。

本校の特色・課題等	B 1 児童は、周囲の人に感謝の気持ちをもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、お世話になった人に進んで感謝の気持ちを伝えている。」 ⇒児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上	・「感謝の気持ちをもつ子は、高い自己肯定感を有する」という理念の下、様々な人々の協力によって自分たちの安全で快適な学校生活が維持されていることに気付かせ、周囲の人や物に対しての感謝の気持ちを培う活動を、家庭と連携して工夫して行う。 ・帰りの会等で、児童同士が相互に認め合って感謝を述べ合う場を日常的に設定する。また、教職員が児童のよい行いに気付いた際には積極的に感謝の言葉を述べ、範を示す。	B	【達成状況】 児童 97.1% 保護者 93.8% 教職員 100% 地域住民 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度と同様に、児童が感謝の気持ちを直接伝えられる場を設定する。
	B 2 児童は、学習することの意義を理解して学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、学習したことは自分に役立つと考えている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業での学習の振り返りを重視し、児童が自分自身の成長や学習の有用性を実感できる指導過程を工夫することで、主体的に学習に取り組もうとする態度を育てる。また、連絡帳や個人面談・学級懇談などで、そうした児童の様子を保護者に伝えるようにする。 ・Chromebook を活用した授業や外国語活動・外国語科の授業を保護者に公開し、今日的な学校教育に対する保護者の理解の深化を図る。	B	【達成状況】 児童 97.8% 保護者 86.6% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・主体的に学習に取り組む児童の姿が分かるように、機会を捉え、工夫しながら保護者に伝えていく。
	B 3 学校と家庭とが連携し、基本的な家庭学習の習慣が育成されている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、基本的な家庭学習の習慣が身に付いている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・家庭学習スタンダードを活用し、家庭と連携しながら家庭学習を奨励する。家庭学習強化週間を設け、児童への具体的な学習内容の指導だけでなく、児童の意欲を高め望ましい学習習慣を身に付けるために有効な関わり方等についても、保護者に分かりやすく紹介する。 ・児童の学習状況を踏まえた課題を与えるなど、家庭学習を効果的に進められるような学習環境づくりを進める。	B	【達成状況】 児童 92.0% 保護者 87.1% ・保護者の回答が目標を下回った。 【次年度の方針】 ・次年度も家庭学習の習慣化を図れるように、学校としての働きかけを続けていく。
	B 4 児童は、自分のよいところに自信を持ち、自己肯定感をもち、生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上	・授業や活動時の振り返り活動を重視し、児童が発揮したよさや、努力したこと、自分自身の成長を自覚できるような自己評価・相互評価の場を設ける。 ・教職員が見取った児童のよさを積極的に本人に伝えたり、児童同士が互いのよさを認め合う場を毎日の帰りの会などで設定したりして、児童が自分のよいところを自覚できる機会を数多く設ける。 ・児童の自尊感情を高めるために、結果だけではなく成長のプロセスを称賛する場を意識して多く設ける。その様子を保護者にも伝え、保護者からも認め励ましていただくよう協力を仰ぐ。	B	【達成状況】 児童 83.2% 保護者 87.8% ・いずれも目標を下回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答は昨年度より増加しているので、今年度の具体的な取り組みを継続して行っていく。児童同士が互いに認め合う場を学級活動や帰りの会などで設け、児童の自己肯定感を高めるような指導をしていく。

B5 児童は、人間関係や学校生活の秩序を維持するための基本的な生活習慣を身に付けている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、脱いだ靴をそろえたり、マナー3か条を実践したりするなど、学校のルールを守っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答90%以上	・児童がマナー3か条や学校のルールを意識しながら学校生活の秩序を維持できるよう、児童の頑張りを認めたり必要に応じて適切な指導を行ったりしていく。 ・児童指導主任や生活当番を中心に、児童の様子で気がかりなことがあった場合には全教職員で共有し、直ちに解決に取り組む。 ・学校からの情報発信により学校での取組を家庭や地域と共有することで、基本的な生活習慣の更なる定着を目指すとともに、児童のマナーアップへの協力を依頼する。	C	【達成状況】 児童 94.2% 教職員 100% ・いずれも目標を上回った。 【次年度の方針】 ・教職員と児童の肯定的回答は、目標を上回っているため、今年度の具体策を継続していく。学校のルールについて、プロジェクト活動等を通して児童に周知し、児童が意識して生活できるように指導していく。 ・A3と統合し、「3つの『あ』」を中心に学校のルールを重点化して指導を徹底していく。
--	---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・評価に関する数値的指標は30項目中、昨年度より1項目増え21項目で目標を達成した。児童への設問では、すべての項目で肯定回答が市の平均を上回っており、本校児童は、学校のエデュケーション活動にうまく適応しているものと考えられる。 ・「思いやりの心」「健康安全」「不登校対策」「活気ある学校」に関しては、教職員・保護者・地域住民・児童のいずれも高い肯定回答率であり、温かい校風が受け継がれている。 ・「夢や目標に向かって粘り強く取り組む児童の育成」については、児童・保護者とも市の平均を上回っているものの児童の肯定回答が昨年度よりやや下回った。キャリア教育の推進やスモールステップで日々自分なりの目標を意識させ、達成した経験を積ませるなどの支援をしていきたい。 ・「宇都宮の良さ」については、昨年度に引き続き児童と保護者のとらえ方に大きな差があった。今年度は、10月に宇都宮ウィークを設定し、配付した資料をもとに家庭で話し合いの場を設けるよう促したが、両者の差を縮めることが出来なかった。今後は、総合的な学習の時間で学んでいることの紹介等、ホームページや授業参観で積極的に家庭に発信していきたい。 ・「一人一台端末の活用」については、ホームページや授業参観等で取組状況について周知を図ったり、AIドリルを積極的に活用したりしたことで保護者の肯定回答は、4.3ポイント増え、ほぼ目標値となった。 ・「いじめ対策」に関しての保護者の肯定回答は、昨年度を3.6ポイント下回った。児童の肯定回答は、99.3%であるため、学校としての取組に大きな課題は見当たらないようにも感じるが、さらに保護者に対して適時性のある丁寧な説明等、学校の取組の状況を保護者へ周知していきたい。 ・「分かりやすく、きめ細かな指導」については、保護者の肯定回答が若干目標値を下回った。引き続き教科担任制や習熟度別学習、T・Tなどの少人数指導を充実させ、児童の実態に合わせて、各自の学力をさらに伸ばす指導や取組について工夫していくとともに、保護者へ取組状況を積極的に伝えていく必要がある。 ○「小中一貫教育」については、児童の肯定回答率が大きく改善されたものの、保護者は昨年度を下回り、市の平均と同程度となった。地域学校園で連携して取り組んでいるあいさつ運動や乗り入れ授業等、保護者に一層周知していきたい。 ・「家庭学習の習慣化」について保護者の肯定回答は、目標値には届いていないものの昨年度を11.4ポイント上回った。今後も家庭学習の習慣化が図れるように、学校としての働きかけを続けていきたい。 ・「自己肯定感」については、保護者の肯定的回答は昨年度より増加しているが、児童は昨年度を下回った。今年度の具体的な取り組みを継続するとともに、児童同士が互いに認め合う場を学級活動や帰りの会などで設けるなど、より一層認め励ます指導に努めていく。

7 学校関係者評価

・児童が生き生きと輝く学校環境づくりご尽力いただき感謝している。一方で本校自慢の挨拶が地域の方に対してできていない様子も見受けられる。コロナ禍で地域の方と触れ合う機会が少なくなっていることが要因として考えられるが、校内だけでなく校外でも相手に伝わる挨拶ができるようになると良い。 ・児童の「自己肯定感」を高めるためには、児童を認め励ます教育の一層の充実を図るとともに、家庭においても自分自身の成長を自覚できるような声掛けが必要ではないか。 ・全体的に児童の肯定回答と比較して保護者の肯定回答が低い傾向にあり、今後更なる保護者への周知が求められる。学校の情報発信の手段としてホームページやさくら連絡網等が多くなってきているが、紙ベースの方が目に止まり読みやすい方もいるのではないか。 ・先生方の業務の効率化が図られていることは何よりである。 ・高学年児童と保護者、地域住民とで学校の問題点等について話し合う場を設けてみてはどうか。
--

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○本年度は高学年における教科担任制実施のモデル校として、地域学校園の協力を得ながら教師の専門性を生かした授業を実践してきた。それにより、教職員の授業力・指導力を向上させるとともに、児童の学習意欲を喚起することができた。今後とも、算数科を中心にさらに児童の主体性を生かし伸ばすことができる授業づくりを目指して研究を進める。

- ・ いじめ対策を含め一人一人が居心地のよい学級・学校づくりに向け、これまでの取組を継続するとともに、保護者や地域に学校の取組を丁寧に説明したり情報発信したりし共通理解を図りながら進めていく。
- ・ 学校生活におけるルールの徹底を図るために、これまでにあった様々な合言葉を整理し、「3つの『あ』」を中心に学校のルールを重点化して指導を徹底していく。
- ・ 地域学校園の取組の周知を図るために、地域学校園とのつながりを意識しながら日々の教育活動をするとともに、保護者へ積極的な情報発信をしていく。